

2013年7月18日

逗子市長 平井竜一様

日本共産党逗子市議会議員団
団長 岩室年治
橋爪明子

逗子海岸の殺傷事件と海水浴場の防犯対策についての緊急申し入れ

7月14日の午後8時30分頃、「2人の男性が血まみれで倒れている」と女性から110番通報があり、刃物のようなもので刺され一人が死亡、もう一人の男性も重傷ということである。報道では二人とも暴力団関係者とみられている。

今回の事件発生現場は、逗子海水浴場の砂浜と新宿1丁目の駐車場付近であり、付近の住民と海水浴場の利用者を不安に陥れる事態となっている。

また、13日、飲酒した米兵が不法侵入、女性のバックを盗もうとする窃盗未遂事件が発生している。5月12日にも逗子海岸で飲酒した米兵が、久木小学校に玄関を壊し、不法侵入、窃盗をはたらく事件も発生し、市議会で抗議決議をしたばかりである。

近年、逗子海水浴場の「海の家」は変貌し、夜間営業による騒音、風紀の乱れは深刻な状況を作り出し、今年から夜間営業の時間短縮も実施された。しかし、今年も海水浴場開設後、飲酒を原因にした喧嘩やトラブルが頻繁に発生し、警察が出動し、市民等の不安は解消されていなかった。

逗子市は、親子で楽しめる海水浴場として「ファミリービーチ」をめざし、「安全で快適な逗子海水浴場の確保に関する条例を制定し、取り組みをすすめてきたところである。ところが、海水浴場は年々、風紀の乱れが指摘され、周辺住民からは「安心して散歩もできない」「子どもを海岸で遊ばせられない」と言う声も多く寄せられるようになっていた。

まさに今回の殺人事件は、逗子海岸、海水浴場が無法地帯に陥ったことを示すものです。

市長は、逗子海水浴場の開設責任者であり、「条例」でも「安全で快適な逗子海水浴場の確保及び近隣住民の生活環境の保全」の市の責務を謳い、逗子市民の生命と財産を守る立場でもある。そのことから、今回の事件を受け、以下とおりの緊急対策を取り組まれるよう強く要請します。また、全員協議会で市長報告をしていただきたい。

- 1.逗子市・逗子海岸営業協同組合・逗子警察署・神奈川県・米軍による防犯パトロールの強化について、金曜日と土曜日の夜だけでなく、海水浴場が開設されている期間を通じて、昼夜にわたり実施すること。
- 2.逗子海水浴場の安全が確保できるまで、教育委員会を通じて、保護者同伴以外の児童生徒が逗子海岸に近づかないような措置を行うこと。
- 3.今年度、逗子海水浴場の夜間営業時間を19時までに短縮すること。
- 4.「逗子海水浴場の運営方針・ルール」を定める協議会を速やかに開催し、対策を協議すること。また、不安を払拭できるよう周辺住民への説明会を行うこと。
- 5.横須賀米軍基地に対し、米兵等の飲酒禁止措置を行うように要請すること。